

備前市教育ロードマップ進捗状況（平成27年度～平成28年度）

重点方針	取組項目	計画内容	進捗状況	平成28年度までの具体的な取り組み
① 確かな学力・健やかな体・豊かな心の育成	1 学力向上	備前学力向上ガイドラインをベースに各校の特色ある取り組みの構築	概ね計画どおり	年度当初の校長会や学事訪問の際に、備前市学力向上ガイドラインについて説明し、各校の特色ある取り組みを依頼した。指導訪問や要請訪問による授業参観を行い、授業改善に向けて指導を行った。小学校6校、中学校2校で県事業「放課後学習サポート事業」を行い、放課後や長期休業中の児童生徒への学習支援を行った。平成28年5月に市、岡山大学大学院、ベネッセコーポレーションと産官学の連携協定を締結し、学力向上に向けた実践研究を実施している。事業内容はタブレット教材の開発、学力調査分析、学習支援員配置、中学3年生を対象に学習教材の配布と土曜日2時間の学習支援(サタスタびぜん)を実施した。
		読書活動とも連動した国語力増強作戦、放課後・休日学習への地域支援強化		
		岡山型学習指導のスタンダードをベースにした授業改善の実施		
		習熟度別指導や学力到達状況テストの活用		
	2 読書活動の推進	備前市子ども読書活動推進計画（第二次（2015-2020））	概ね計画どおり	学校司書の全校配置が整った。市立図書館3館それぞれでお話し会を毎月実施した。また、絵本作家による読書まつりを実施、図書館構想策定のため図書館協議会委員を公募した。図書館に関する市民の方のご意見を伺うため、市民サロンを実施した。
		図書館・公民館の見直しと全体最適化		
	3 就学前教育の充実	30「認定こども園等就学前施設の環境整備」に統合	-	-
	4 ICTを活用したフューチャースクールの推進	先進実践校、展示イベント等への視察実施	概ね計画どおり	平成28年度に子どもたちのコミュニケーション能力や発表能力を高めるために、複数の電子黒板や移動しやすい机、椅子などを備えたフューチャールームのモデル教室を全小中学校に設置した。ICT活用推進協議会によるICT機器の効果的な活用方法についての研究を推進した。また、大学教授等を招聘して、教職員を対象に各校の実践事例を発表するICT活用推進フォーラムを開催した。
		モデル教室の設置		
備前市ICT指導計画				
5 体力の向上とスポーツの振興	岡山インターハイ	概ね計画どおり	岡山インターハイは成功裏の内に終了した。スポーツ・レクリエーション活動については、各種スポーツ教室を開催するとともに、地域スポーツクラブの育成を図った。中学校や片上高等学校に部活動補助金による支援を行った。また、県事業を活用し中学校1校に部活動指導員を配置した。	
	スポーツ・レクリエーション活動の推進			
	中学校部活動への支援強化			
6 食育の推進	学校給食副菜への地域農産物採用、地産地消メニューの開発等	計画どおり	平成28年10月から食育推進及び地産地消推進のため、1回200円月1回程度食育給食として補助し、県内産、備前産の食材を使用するなど地元への愛着を深め、生産に携わる人々の苦労などを知ること、より充実した食育を図った。各小学校5年生が米づくりの体験を実施した。	
	学校給食会			
	地域の支援ボランティアによる作付け、収穫等の体験学習の推進			
7 道徳教育の推進	地域や家庭での「備前こころの育成プログラム」を展開	計画どおり	「特別の教科道徳」への対応を優先的に実施した。あいさつ運動は、各学校ごとに委員会を中心とした取り組みが行われた。	
	児童会、生徒会が中心となり、保護者・地域を巻き込んだ「あいさつ運動」の重点化			
8 特別支援教育の推進	各校の実情に応じた支援スタッフの配置、補助教材、機器の導入	概ね計画どおり	特別な支援を要する児童生徒の生活支援のため、小学校に11名、中学校に2名の教育支援員を配置した。	
	支援員配置の充実			
9 文化芸術に親しむ機会の提供	こどもが参加する地域・国内の芸術イベント・コンクール支援	計画どおり	こども備前焼作品展ではワークショップを実施し、1,067点の応募があった。文学賞では随筆・詩・短歌などを募集し、優秀作品を「備前市の文学」にまとめ発行した。また、吹奏楽フェスティバル及びアートプロジェクト「Discovery BIZEN」を実施した。	
② 未来への飛躍を実現する人材の育成	10 キャリア教育の充実	小学校高学年から中学1年生対象とした職場体験活動制度の検討	プログラムは未策定。長期的な取り組みが必要。	中学校2年生を対象としたチャレンジ・ワーク14は、計画的に実施することができた。系統的なキャリア教育実施計画は、中学校では3年間を見通した計画がつけられているが、小中一貫教育を進めていく中で9年間を見通した計画を策定していきたい。
		職場体験活動受け入れ企業との体験プログラムの検討		
		系統的なキャリア教育プログラムの策定		
	11 グローバル人材の育成	小中一貫モデル校でのカリキュラム作成、小中接続プログラムの策定	概ね計画どおり	伊里学園では、英語教育を柱にした9年間のカリキュラム作成に取り組んだ。また、小・中学校の教員を対象とした英語指導力向上研修をそれぞれ3日間実施した。
		教員を対象とした英語指導力向上研修の実施		
		ふるさと備前に関する教育の充実		
	12 国際交流の推進	姉妹都市縁組や文化交流協定等による相互派遣受入事業の継続	計画どおり	平成27年度は、オーストラリア、アメリカへの児童派遣を実施した。ただし、韓国への児童派遣は、韓国国内のMERSの影響で中止となった。また、平成28年度は、オーストラリア、アメリカからの派遣団の受入、韓国への児童派遣を実施した。
		「備前焼」から「BIZEN-YAKI」へ 備前焼づくりを通じての子ども国際交流の推進		
	13 郷土教育の推進	まちたんけん、備前焼づくり、農業体験等、各校の取組支援	概ね計画どおり	各校に「特色ある学校づくり補助金」による支援を行った。「郷土プログラム」については、各校での実践事例を収集している段階である。
		備前ふるさと「郷土」の具体的プログラム策定		
	14 様々な体験活動の推進	異年齢集団を対象としたサマースクールの実施（イングリッシュスクールなど）	計画どおり	イングリッシュキャンプを実施した。また、備前暮らしカレッジ（オープンカレッジ）を市内各所で3回実施した。
		備前暮らしカレッジの開講などによる市内の各団体との活動機会の創出		
	15 切磋琢磨する機会の増大	小中連携を視野に入れた学校間交流の推進	概ね計画どおり	小中連携を視野に入れた児童生徒の学校間交流は次第に増えてきている。基金に関する各種情報収集を行った。
		児童会、生徒会などの交流活動の場の設置		
		「チャレンジ基金」の検討		

備前市教育ロードマップ進捗状況（平成27年度～平成28年度）

重点方針	取組項目	計画内容	進捗状況	平成28年度までの具体的な取り組み
③安全で安心できる学び場の確保	16 こども達の安全の確保	保幼小中合同避難訓練の実施	概ね計画どおり	伊里学園において、伊里認定こども園・伊里小学校・伊里中学校が連携した合同防災訓練を行っている。また、片上小学校と片上認定こども園は、備前緑陽高校との合同避難訓練を行っている。「児童生徒の健全育成に係る岡山県警察本部と備前市教育委員会との相互連携制度に係る協定書」に基づき適切に連携を行っている。
		地域の自主防災組織との連携強化、拠点病院との連携強化		
		地域の見守り隊等の強化支援、防災・安全マップの体系化		
		児童虐待の早期発見・早期対応、警察との適切な連携		
17 学習環境に配慮した学びの場づくり	1 「学力の向上」に統合	-	-	
18 いじめや不登校問題への対応	教員以外の専門家の最適配置による「チーム学校」の確立	概ね計画どおり	県の事業を活用して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の活用を行った。スクールカウンセラーは、全中学校と小学校2校に配置した。	
	いじめ対策委員会の設置、人権教育の推進と各学校の事情に沿ったいいねいな対応			
19 意欲あるすべての者への学習機会の提供	22 「備前まなび塾の充実」に統合	-	-	
④家庭・学校・地域の総合力で取り組む教育活動の推進	20 家庭の教育力の向上	家庭学習における「岡山スタンダード」の実践	概ね計画どおり	「岡山型家庭学習のスタンダード」の家庭用資料「子どもが伸びる家庭学習」を配付した。市内11校で親育ち応援事業を実施した。また、中学校区で中学校の定期テスト週間にメディアコントロールの取り組みを行った。
		親育ち事業		
		メディアコントロールの取り組み		
	21 放課後児童クラブの充実	子ども・子育て支援事業計画に基づく取り組み	概ね計画どおり	各クラブの適正な運営について、監査を通じて指導を行っている。まなび塾+の運営にも携わる教育協力隊員が、クラブと連携して放課後の科学・英語の体験活動を実施した（伊部）。また、クラブが連携し、学校支援地域本部の放課後補習学習への児童の送迎等を行った（香登・伊部・片上）。
		放課後児童クラブと備前まなび塾及び学校支援地域本部との連携		
	22 備前まなび塾の充実	「新・備前まなび塾+プラス」	計画どおり	土曜講座を11教室で実施するとともに、英語等の体験教室を実施した。
	23 学校支援地域本部と地域の連携体制構築		概ね計画どおり	小学校7校、中学校3校に設置し、地域との連携が進んでいる。
	24 規範意識の基礎形成	7 「道徳教育の推進」に統合	-	-
	25 青少年教育の充実・多様な生涯学習機会の充実	世代交流も含めた公民館講座の企画・開催	概ね計画どおり	先進地視察を行い、企画案を検討した。
	26 連携協定大学等との協働による公民館事業の強化検討	「備前賢人講座（仮）」（高齢者の経験を生かした講座をつくる事業）		
	27 生涯スポーツの振興	5 「体力の向上とスポーツの振興」に統合	-	-
	28 歴史文化の活用と伝統文化の継承	13 「郷土教育の推進」に統合	-	-
	29 学校教育施設の環境整備	耐震補強工事/空調・トイレ整備/老朽化補修	計画どおり	子どもたちが安全安心に学習できる環境整備のため計画的に耐震補強工事、空調設備の設置、トイレの洋式化を行った。片上小学校、日生中学校の大規模改造の実施時期及び整備内容について検討し、文部科学省に予算要求した。神根小学校、三国小学校について、統合先である吉永小学校との交流学習の実施、制服補助を行うとともに、地元住民と跡地利用の検討を行った。伊部小学校と備前中学校及び伊里小学校と伊里中学校を一体型の小中一貫校とした場合の校舎等の整備計画策定業務を委託した。
各校の意向による環境整備の施策立案・実施/評価・検証				
神根・三国「最後の一年」を充実させる取り組み。跡地活用計画策定・検討				
小中一貫校導入に合わせた環境整備				
30 就学前教育と環境の整備	(仮) 吉永認定こども園：設計・工事	一部に計画遅れ	吉永認定こども園は28年度内に完成し、29年4月に開園した。伊部地区の認定こども園は年度内入札、着工が遅れ、基本仕様について市長選挙後に政策決定することとした。日生地区も28年度内に予算不足で着工できず、29年度再検討になった。	
	(仮) 日生認定こども園：設計・工事			
	(仮) 伊部認定こども園：設計・工事			
	他の認定こども園：選定・測量・設計・工事・開園			
31 義務教育学校（小中一貫制度）の導入	モデル校研究	概ね計画どおり	モデル校である伊里中学校区や、後続校への支援、小中一貫教育懇話会の開催、教職員・保護者・地域へ小中一貫教育についての説明を行った。伊里中学校区では準備が整い、平成29年4月に「伊里学園」として開校した。全中学校区で合同研修会や相互授業参観等の取り組みが積極的に行われ、体制づくりがなされている。	
	学校施設調査・改築準備			
	後続校研究			
	保・幼・こども園・小・中連携、交流事業の充実			
32 本大綱の趣旨に最もかなった教科書採択	中学校教科書の採択	概ね計画どおり	中学校教科用図書採択は、適正に行われたが、教員数の減少により、単独の研究を行うことで研究委員になった教員への負担が大きい。	
	「共同研究+単独採択」に向けた協議会との折衝			
33 全市域学区選択制の導入やカリキュラム選択等柔軟で質の高い学びを実現する教育環境の整備	小中一貫モデル校の伊里、統合再編の吉永等からモデル学区を選定して学区選択制を検討	計画の見直しを検討	「地域で育てる」という趣旨との整合性、各中学校区の取り組みの特長と成果が明らかになっていないことから今後慎重な検討が必要と思われる。	
⑤解決すべき個別課題	34 子どもと向き合う時間を増やすための、教員の業務負担軽減	「業務の棚卸し」と「現場の声でスクラップ実行」	難航しているが継続課題として取り組む	スクラップできた事業はない。県事業を活用し、教師業務アシスタントを小学校1校、中学校2校に配置した。
		「チーム学校」の編成と教職員構造の転換		
	35 特色ある学校づくりのための、学校裁量権拡大の検討	「すべては子どもたちのために」学校応援事業の実施	概ね計画どおり	「すべては子どもたちのために」学校応援事業として学校教育振興基金を設置し、各小中学校に100万円を配分した。
全国の先進地事例研究調査				
36 共同調理場運営	指定管理者制度導入（民間委託含む）の調査・検討・決定	未決定。調査・検討の継続が必要。	平成27年12月に民間委託を実施した美作給食センターと業者に聞き取り調査を行い、民間委託時のメリット、デメリット、コスト面について整理した。	